

第5回 名勝木曽川の堤防整備に関する検討委員会

議事要旨

令和6年8月30日 13:30～14:30 WEB会議

検討結果のとりまとめを行った。なお、坂路外壁の修景方法について、玉石積から擁壁と同様の目荒しに変更することが了承された。

〈質疑応答〉

- コンクリート護岸修景の表現について、前回第4回までの「洗出処理」が今回資料では「目荒し」とされているが、どのような考え方で改めたのか。
→ 修景方法を「目荒し」、その実施手段を「洗出処理」とした。
- 階段外壁の玉石積の施工方法について、前回第4回検討会で確認したアンカーの設置が今回のとりまとめ資料では記載されていないが、実施するのかどうかを確認したい。
→ 階段外壁の玉石積は、剥離防止のためアンカー式を前提としている。
- 護岸と階段のコンクリート打設は一体的に行うのか、それとも護岸コンクリートを打設した後で階段との間に土砂の中詰を入れるなどして分離施工するのかどうかを確認したい。
→ 護岸と階段のコンクリート打設は、工事の効率を高めるため一体的に行う予定としている。
- コンクリート材料の骨材について、産地の統一性がとれたものを施工時に必要なだけ確保できるのだろうか。複数の産地のものを混ぜることも考えてはどうか。
→ ご意見を踏まえ、試験的な施工の際の骨材仕様を具体化していく。
- 堤防整備に伴い樋門を設ける水路には、河畔部で横断できる橋のようなものがあるが、その機能をどのように確保するのか。
→ 水路の横断機能は、堤防天端で確保される。河畔部での同機能は、樋門等施設の維持管理上の必要性も含め検討していく。
- 堤防沿いの家屋側に設けられる通路とそれに直交する既存通路との交差部には、右左折が容易となるよう隅切りを設けられたい。
→ そのように設計する。

〈とりまとめ、感想等〉

- チャート露岩のことなど、学ぶ面もあった。堤防が早期に整備され、治水上の安全度が確保されるとよい。
- チャート露岩の改変を極力抑えるという目的は、十分に達成されたと考えられる。工事にあたっては、露岩の損傷がなるべく生じないように配慮してほしい。
- 検討は名勝の意味合いからスタートし、風致景観すなわち自然界の趣ということで、河畔のチャート露岩が一つの重要な構成要素という認識に立った。露岩の面積は、堤防整備に伴いある程度減少するが、それを最小限に抑えられたことはよかった。名勝の要素を改変する事業が他にあれば、これを先例にできるのではないかと。名勝木曽川の構成要素がチャートだけなのかが少し気にはなるが、自身の今後の課題としたい。この地には各務原市と犬山市それぞれに景観協議会があるが、検討の過程で地元の意見も十分に反映されたのではないかと考えている。

- この地は、流域面積が5千 km²余と広大な木曽川の濃尾平野への入口にあたり、チャートの奇岩に緑の山々、そして水面が織りなす重要な景観は、日本ラインとして有名な場所となっている。そこで堤防を如何にして造るのか、考え学ぶ機会となった。堤防が早く整備されることを願う。
- 今回の検討結果は、露岩を極力残す形状になったと考えられる。また、堤防整備に伴う上流側の樹木伐採等により新たな露岩が出現した場合は、その取扱を速やかに検討されたい。
- 検討結果は、治水上の課題への対応と構造物も含む河川景観とのバランスがとれた、よい計画になったと考えられる。
- 自然景観に配慮され、チャート層への影響を極力生じさせない計画になったと考えられる。
- 検討が細部まで行われてよかった。この地は、各務原市と犬山市とで開催している木曽川景観協議会において日本ライン渓谷美形成ゾーンとして位置付け、露岩をしっかりと保全していく計画としている。この露岩に興味を持ってもらえる機会が、工事の過程で設けられるとよい。
- 堤防の工事が4年程度の長期間にわたることから、工事受注者に検討結果を十分に理解してもらった上で工事を進めてもらいたい。
- 今後の工事の実施にあたっても、地元への情報共有をしながら進めてもらいたい。
- この地には景観以外にも、水神碑や渡し跡など歴史的・人文的な要素、集落が古くから存在するといった特徴がある中、委員会と並行して地元関係団体等への意見聴取が進められ、細やかに対応された。計画としてはうまくまとまっており、試験的な施工など工事実施に向けた準備もしっかり続けてもらいたい。
- この委員会での検討は、河川に関する文化財をどのように保護していくのかという意味で、非常に興味深い事例になったと考えられる。このような条件のもとで行われる工事が今後もあれば、この事例をうまくいかしてもらいたい。今後の実施設計等についても、情報共有を続けてもらいたい。